

ベイブレードバースト カスタムベイランチャーLRの修理法（紐が戻らない）

2021.05.24

トミー・マック

1. 外 観

おもちゃの名前は「ベイブレードバースト カスタムベイランチャーLR（B-182ベイブレードDBエントリーセット封入品）」、（株）タカラトミー製で2021年の発売です。



2. 特 徴

B-182ベイブレードDBエントリーセットには、レイヤー・ディスク・ドライバー・カスタムベイランチャーLR・ランチャーグリップ・ベイスタジアムがセットになっており、すぐにベイブレードを楽しめます。その中身の一つがこのカスタムベイランチャーLRです。

3つのパーツに分けることができ、組み合わせることで右回転あるいは左回転に切り替えられます。このベースは赤色ですが、黒色のB-184カスタムベイランチャーLRも販売されています。

3. 故 障

強く引張られて過酷な使い方をされます、紐が戻らないことや回転軸折れなどの故障が多いです。

今回は紐が戻らない代表的な故障です。

4. 原 因

分解と修理過程で分かったことは、

- ゼンマイの始点の留めが外れています。 → 強い力で引っ張りすぎ。
- コアユニットの連結軸の先端の十文字の3/4が欠けています。使えるかどうか？ → 修理不可。

対応は、

- ゼンマイの始点をしっかりと留めます。

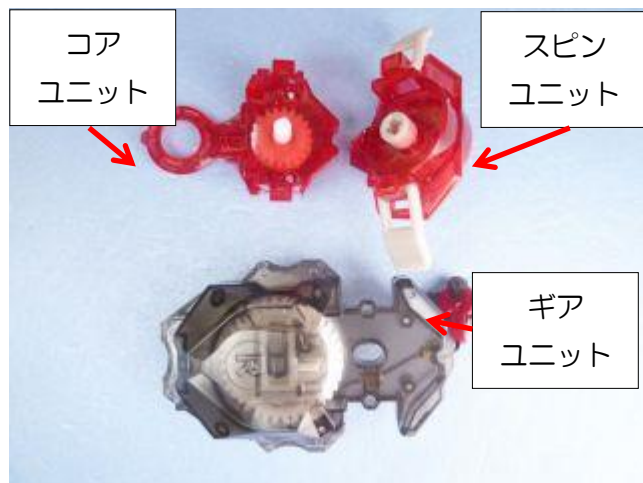


5. 修 理

構成するのは、

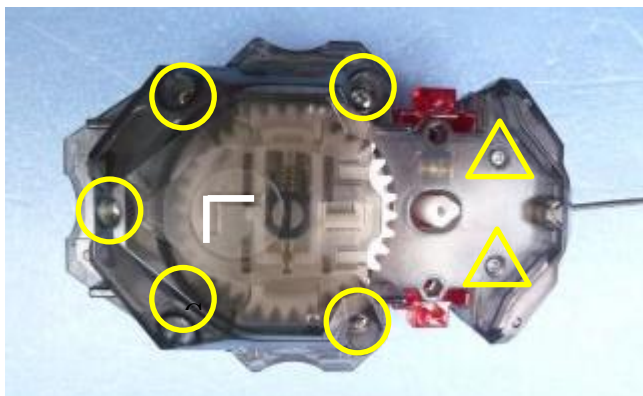
- ギアユニット ・ コアユニット ・ スピンユニット
- です。

ギアユニットを中心に、コアユニットとスピンユニットを上下入れ替えれば、右回転あるいは左回転に切り替えられます。



ベイブレードバースト カスタムベイランチャーLRの修理法（紐が戻らない）

(1) ギアユニットからスピユニットを外す
左右のレバーを引き上げれば外れます。

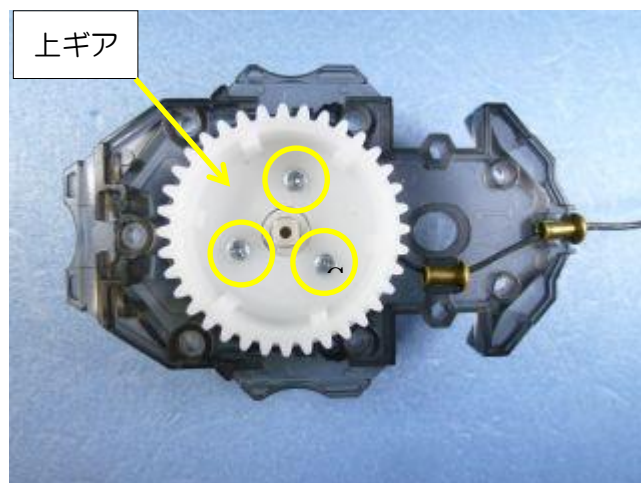
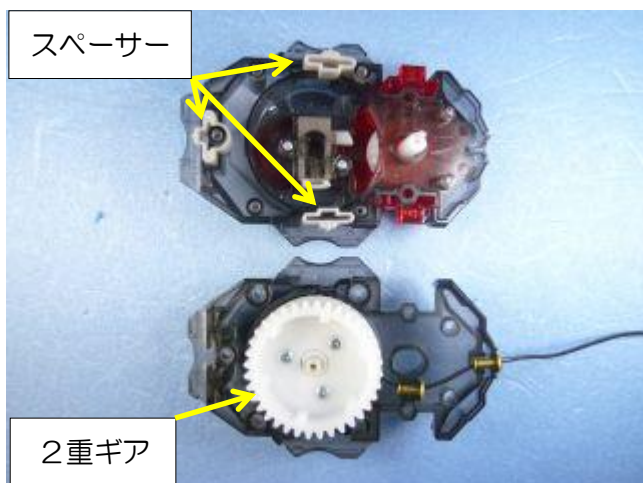


(2) ギアユニットのネジ外し

「L」と表示された側にある、○印のネジ（タッピング 2.6X5）を5本、△印のネジタッピン 2.0X5）を2本外します。

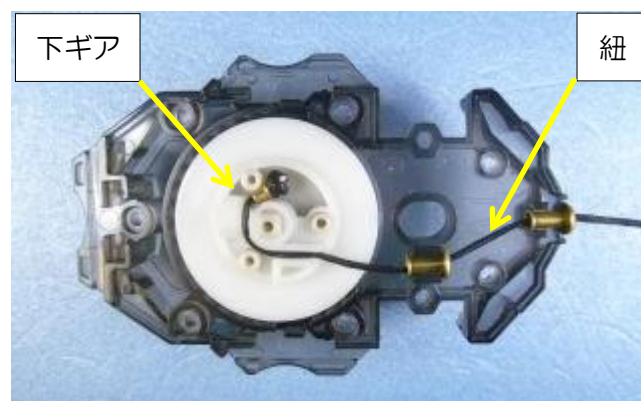
(2) 2重ギアのネジ外し

分離すると、カバー内にスペーサーがあります。3個ありますので無くさないようにします。
上ギアの上の○印のネジ（タッピング 2.6X5）を3本外します。



(3) 紐の外し

上ギアを取り去り、下ギアにある紐を外します。



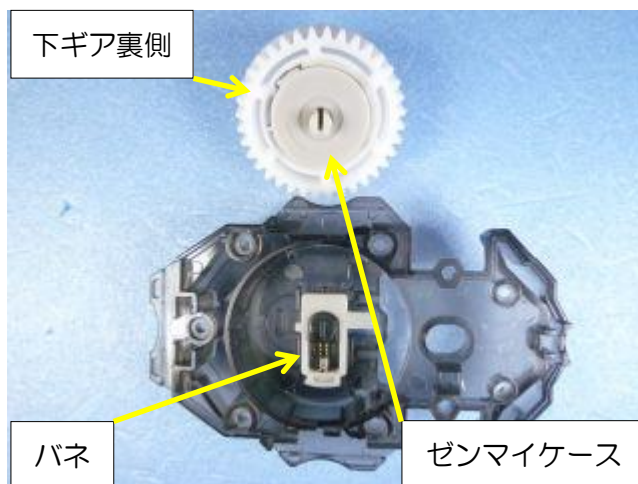
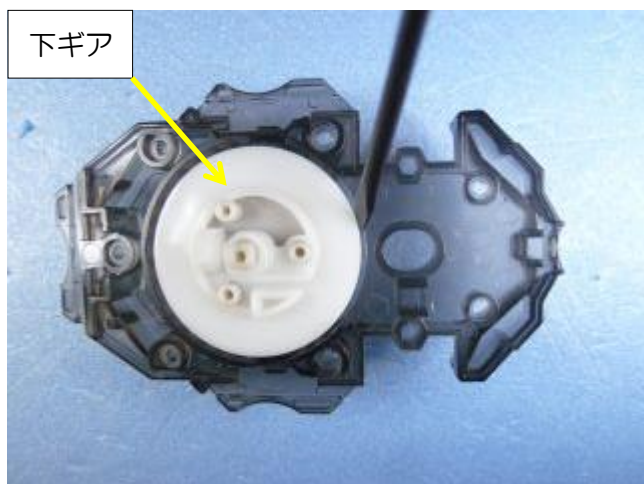
ベブレードバースト カスタムベイランチャーLRの修理法（紐が戻らない）

（４）下ギアの取り出し

下ギアを小さなマイナスドライバーで上へこじると取り出せます。

裏側にゼンマイが入ったゼンマイケースがあります。

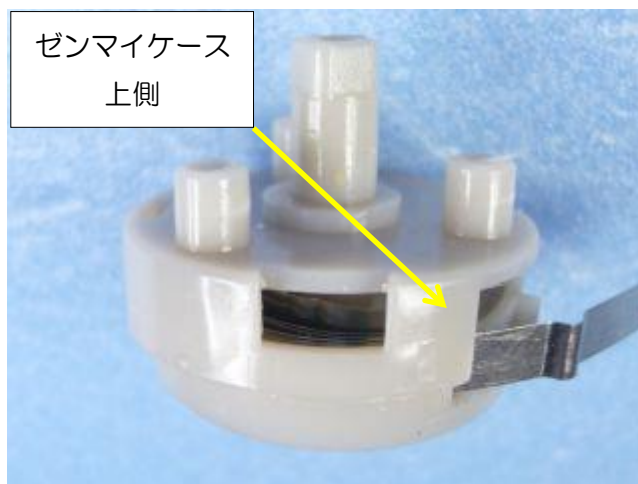
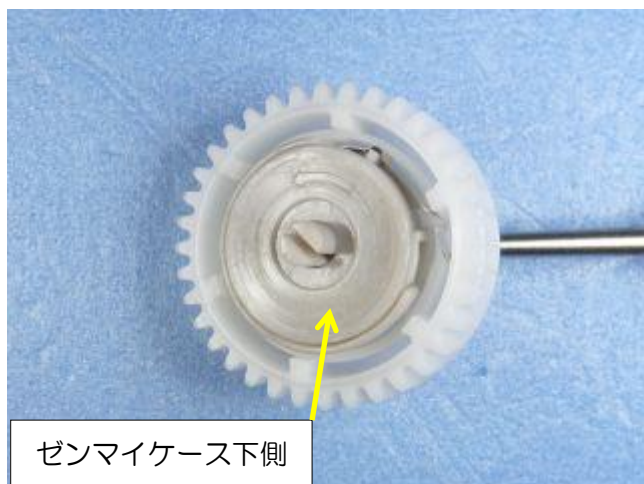
下のケースの内側にバネが入っていますので、飛ばさないように注意します。



（５）ゼンマイケースとゼンマイの取り出し

下から中心の軸を突き上げると簡単に取り出せます。

ゼンマイケースの上側（開口が2か所ある）の開口付近を、小さなマイナスドライバーの先でこじ広げると係合が外れ、上側が外れます。



（５）原因の確認

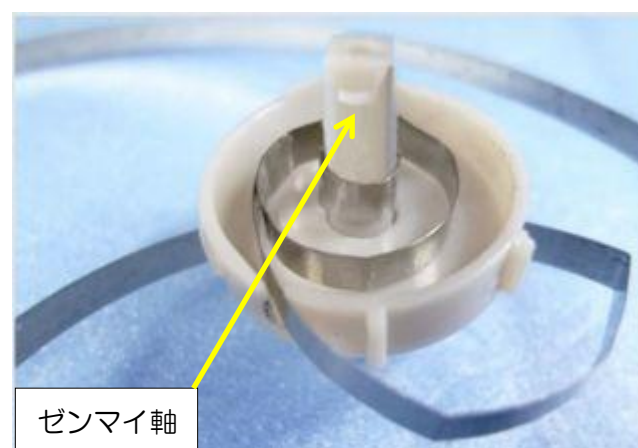
分かり難いですが、ゼンマイの始点がゼンマイ軸から外れています。



これが「紐が戻らない。」原因です。



修理に進みます。

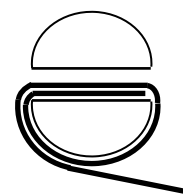


ベブレードバースト カスタムベイランチャーLRの修理法（紐が戻らない）

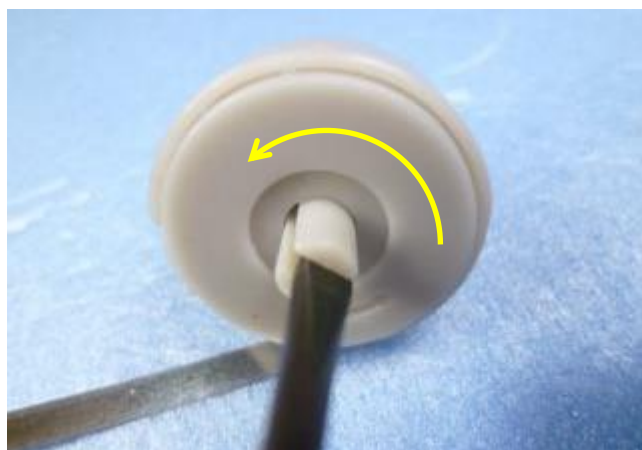
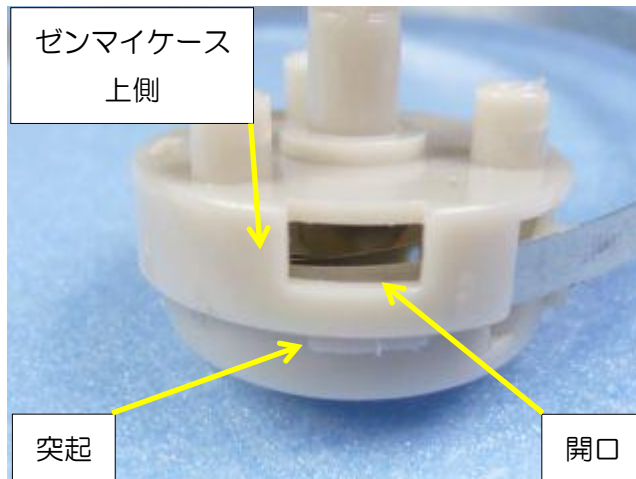
（4）修 理

（a）ゼンマイの巻き

巻き始めの固定を確実にするため、右図のようにゼンマイ軸先端の割に1周以上巻き付けます。

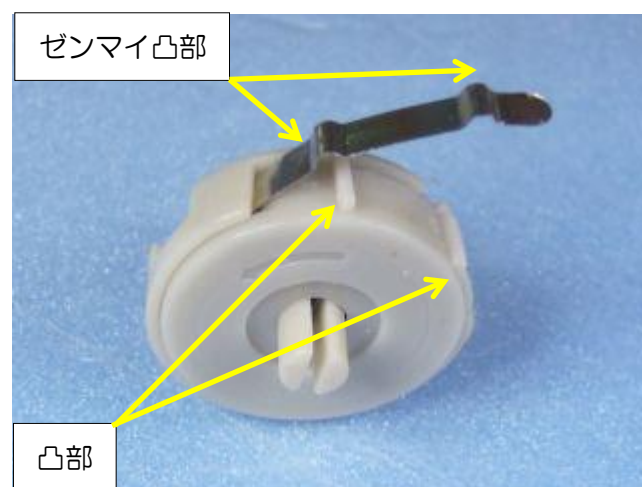


1～2周くらい巻いた後、ゼンマイをゼンマイケース下側のスリットから引き出し、ゼンマイケース上側を被せて2か所の開口にそれぞれ突起を入れふたをします。



ゼンマイケース下側のゼンマイ軸の中心にマイナスドライバーの先を当て、半時計方向に回してゼンマイを巻きます。

ゼンマイの終端の凸部（2か所）が、ゼンマイケース下側の凸部（2か所）に合わせられるところまで巻きます。



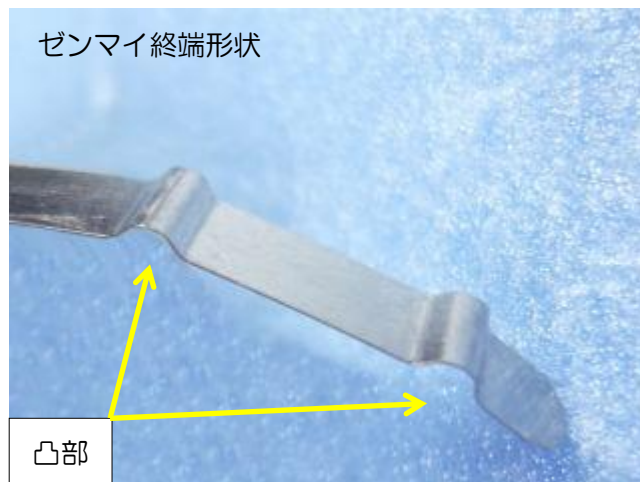
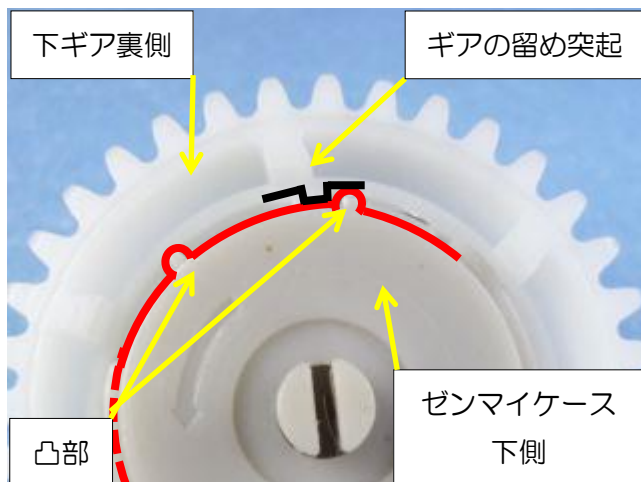
これで、原因追及と修理が **完了**。

ベブレードバースト カスタムベイランチャーLRの修理法（紐が戻らない）

(5) 元に戻す

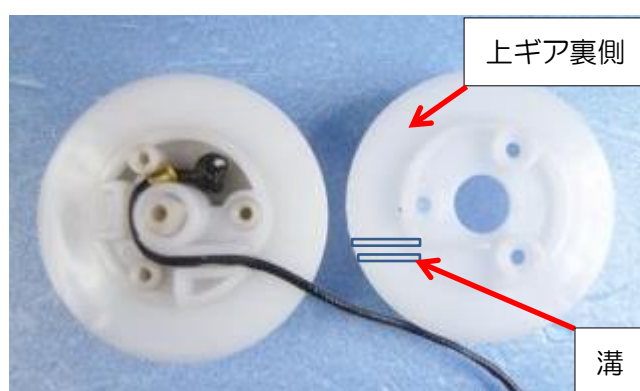
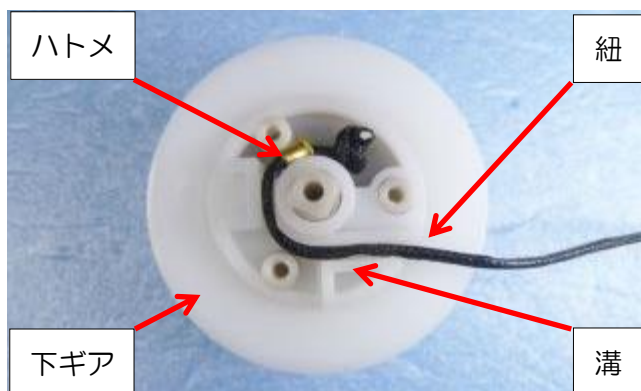
(a) ゼンマイの収納

巻き込んでふたをしたゼンマイを下ギア裏側に納めますが、ゼンマイの終端の凸部（2か所）をゼンマイケース下側の凸部（2か所）に合わせ、ギアの留め突起がその間になるように押し込みます。



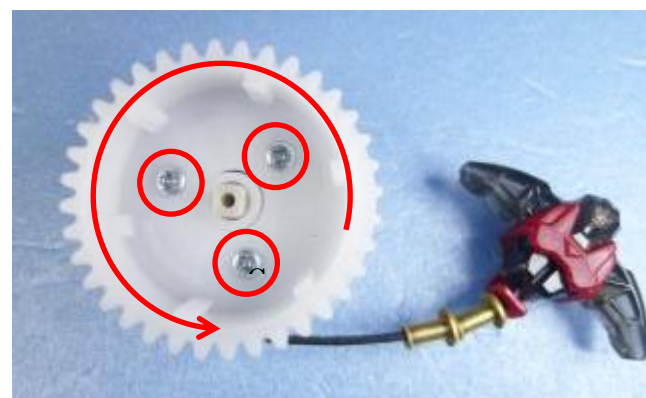
(b) 上ギアと下ギアの組込み

下ギアの上側の下凹位置に、小さなハトメを通して紐の終端を引っ掛け、溝にはめます。上ギアを溝同士の位置合わせて重ねます。



上ギアの上をO印のネジ（タッピング 2.6X5）3本で留めます。

紐を反時計方向に、少し届かない位の3 cm程を残して巻き上げます。

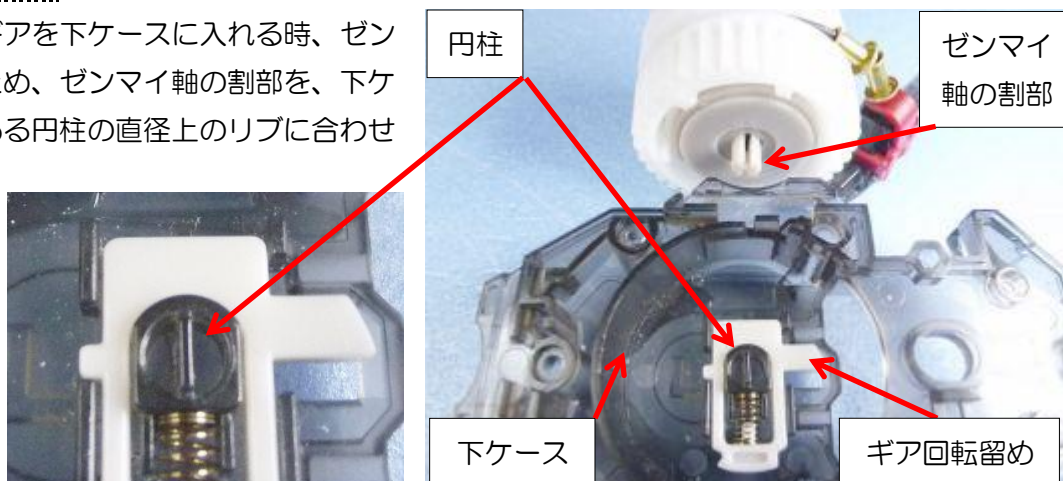


ベイブレードバースト カスタムベイランチャーLRの修理法（紐が戻らない）

（c）2重ギアの組込み

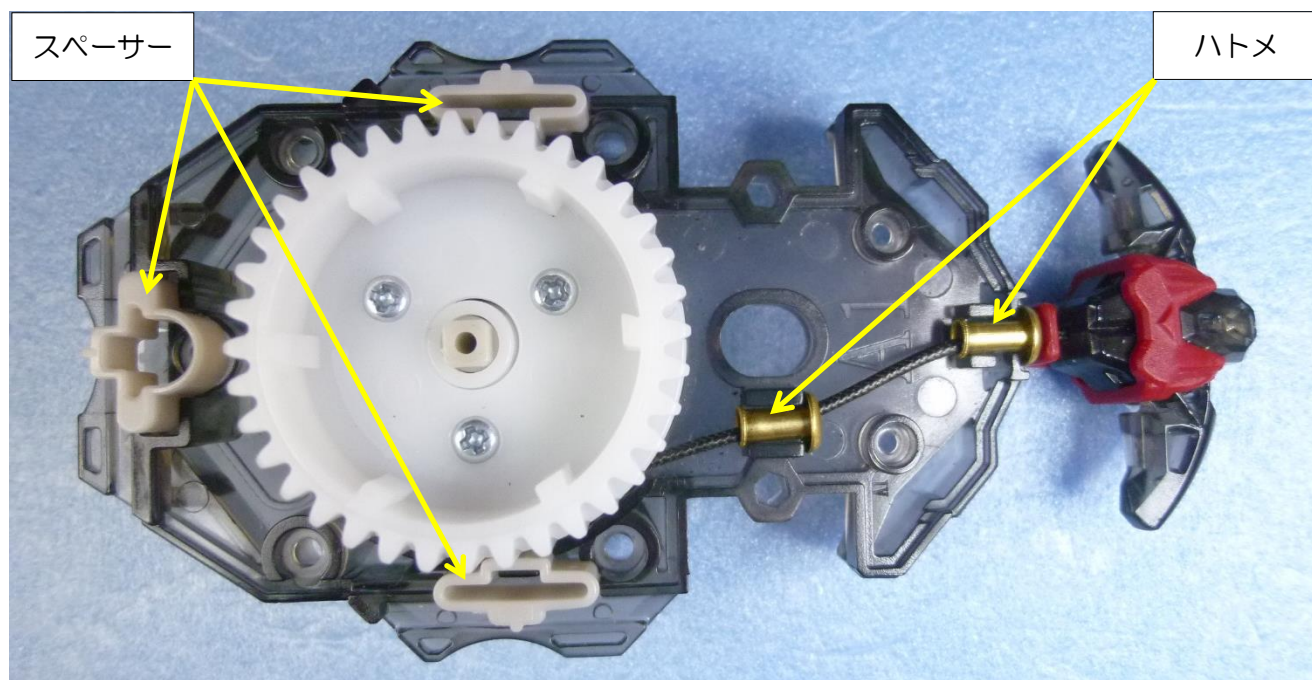
組み上げた2重ギアを下ケースに入れる時、ゼンマイ軸を固定するため、ゼンマイ軸の割部を、下ケースのバネの上にある円柱の直径上のリブに合わせて入れます。

拡大



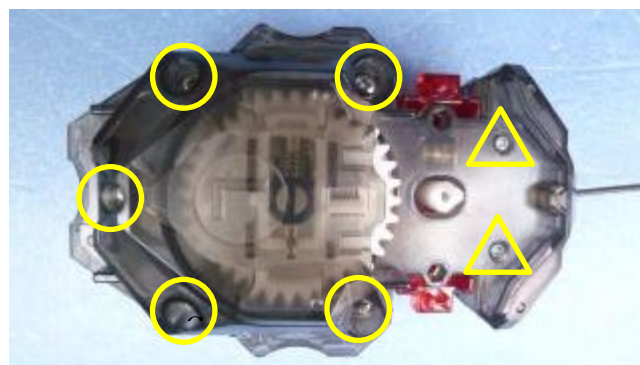
（d）紐の引き回しとスペーサーの配置

裏側からマイナスドライバーの先でギア回転留め（白い樹脂）を押して紐を緩め、紐のハトメ2個を所定の位置に配置して引き回します。スペーサー3カ所も配置します。



（e）上ケースのネジ留め

○印のネジ（タッピング 2.6X5）を5本、△印のネジタッピン 2.0X5）2本で留めます。



ベイブレードバースト カスタムベイランチャーLRの修理法（紐が戻らない）

（f）スピユニットの取付け

左右のレバーを押し込めば留まります。

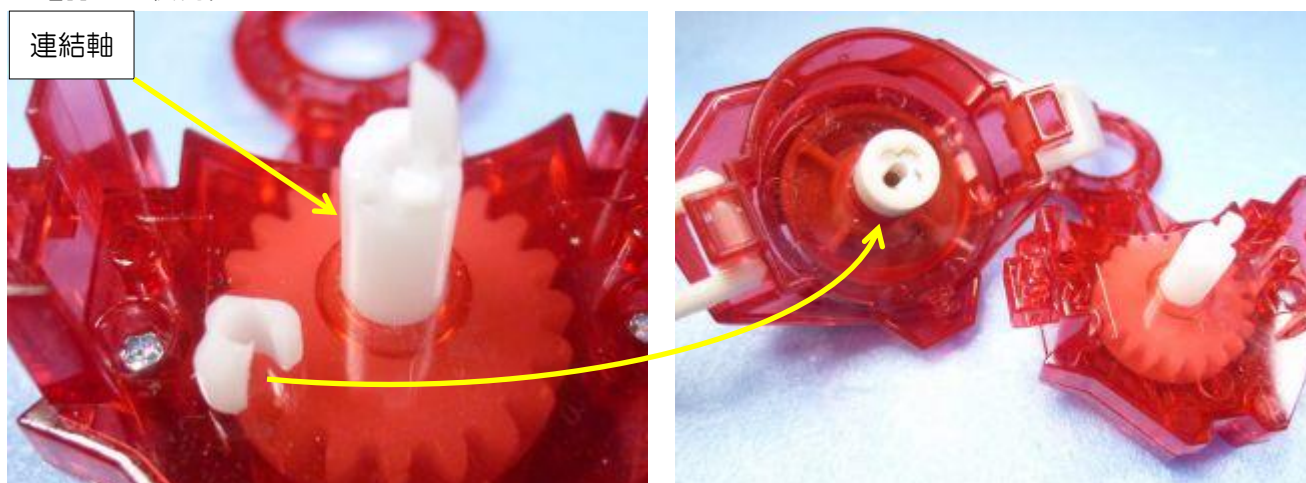
完成

（g）動作の確認

コアユニットの欠けた連結軸の先端の十文字の3/4を、スピユニットの十文字孔穴に入れて組み、紐を回しましたが、**硬くて回りません。**

懸念した通り・・・

確認した状況、



欠けた連結軸の先端の十文字の3/4を十文字孔穴に入れなければ、紐はスムーズに問題なく出し入れできます。

どうやら、十字穴内で連結軸が曲がった状態になり、摩擦が大きすぎて**回らない**ようです。



（対応）

コアユニットの連結軸は**ジュラコン**（ポリアセタール樹脂）の成型品で、ジュラコンは難接着樹脂なので**接着できません**。また微細で且つ強度のあるフィラメントがないので、3Dプリンターで**加工が困難**です。



（結論）

紐の修理はできましたが、回転させることができませんので、**修理不可**になりました。

同一形状の、単品販売の黒色のB-184 カスタムベイランチャーLRの購入を勧めます。

終わり